

テーマ

人々を自由にする規制とは？

適用分野

社会政策、労働社会学、家族社会学、福祉社会論、社会調査論



研究名称

福祉国家における規制の研究

氏名所属

阿部真大 教授
文学部 社会学科

内容

●**特徴**：私の研究は、一言で言うと、福祉国家における規制のあり方に関する研究です。福祉国家には、国民の福祉のために現金の給付をおこなう「給付国家」としての側面と経済活動の規制をおこなう「規制国家」としての側面があります。現在の福祉国家に関する研究が、前者、つまり給付国家としての側面に偏ったものであるという問題意識が、まず、あります。社会学の創始者のひとりであるエミール・デュルケムが「自由は規制の産物である」と指摘したとおり、規制に関する研究は、極めて社会学的な問いであります。

●**概要**：その上で、私の研究は、現状分析と制度構想のふたつの研究に分かれます。

まず、現状分析については、エスノグラフィックな手法を用い、『搾取される若者たち - バイク便ライダーは見た！』（集英社）、『働きすぎる若者たち - 「自分探し」の果てに』（NHK出版）などを執筆しました。なぜ、エスノグラフィーにこだわるかと言うと、自分（たち）だけで何とかできるだろうと言う人がいる。そんなことはないということ、つまり、個人を超えた社会による規制が必要であるということを知ってもらうためには、彼らが自分（たち）だけでどこまでできるのか、その臨界点を描き続ける以外に方法はなく、それを描くには、エスノグラフィックな手法がもっとも適していると考えているからです。

エスノグラファーとしては、読み手に「自助努力」の限界を予感させるような、そんなエスノグラフィーを書きたいと

思っています。そういった地道な作業を通してしか、人々の「共感」を得ることはできない、そして、共感することが、社会が変わっていくための第一歩だと考えています。

続いて、制度構想です。これは、国際比較、歴史研究が主なふたつの大きな柱となっています。今後の日本社会における規制の具体的なあり方について、外国から、歴史から学ぼうと考えています。

まず国際比較については、アメリカにおける「キャリアラダー戦略」の実践を、翻訳書である『キャリアラダーとは何か』（J・フィッツジェラルド 筒井美紀、居郷至伸と共訳 勁草書房）で紹介しました。今後は、スウェーデンにおける社会保障システムについて研究を進めていきたいと思っています。

また、歴史研究については、さらにふたつの柱があります。ひとつは近代家族における世代間継承の問題、もうひとつはサービス業の規制に関する問題です。前者については、共著書である『ケア その思想と実践4 家族のケア 家族へのケア』

（上野千鶴子他 編 岩波書店）で、遺留分制度の分析を行いました。後者に関して、現在、戦前の商店法の形成について調査を進めています。

1. 現状分析	エスノグラフィックな手法を用いた調査・研究
2. 制度構想	
2-1. 国際比較	
2-1-1.	アメリカにおけるキャリアラダー戦略
2-1-2.	スウェーデンの社会保険制度
2-2. 歴史研究	
2-2-1.	近代家族における継承の問題
2-2-2.	サービス業の規制に関する問題

図 福祉国家における規制の研究

キーワード

福祉国家、エスノグラフィー、キャリアラダー、近代家族、サービス産業

連携方法

- 講演
- 研修
- 研究相談
- 学術調査
- コメント
- 共同研究